
魔法少女リリカルなのはStrikersMETEOR

カワタロス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはStrikers METEOR

【Nコード】

N2497BA

【作者名】

カワタロス

【あらすじ】

空港火災の日、スバル・ナカジマを助けた二人。自分を救出してくれた高町なのは。そして身体に星空を纏った戦士。一年後スバルが訓練生になった日早速遅刻した少年。その少年こそが仮面ライダースーパー1の弟子にしてスバルを助け出した少年、夜空流星だった。

0 / 俺の首が・・・(前書き)

プロローグなので短めに。

0 / 俺の首が・・・

いきなりだが・・・。

「・・・まいったなあ・・・。」

燃え上がる空港、基そこで一人の少年が途方にくれていた。

「だからあれほどろつくなくなって言われたのに・・・、うろつ
いちやっつたなあ俺・・・。」

少年はため息を吐く。

その直後崩れた柱が落ちてきたものの、少年は回し蹴りでいともた
やすく蹴り飛ばす。

「とりあえずこのままここにいたらまだ13歳で生涯を閉じかねな
いかなあ・・・。魔法もまだヘキサを使いこなせてないし・・・。
仕方ない！」

少年は辺りを見渡す。

しかし周りはただ炎がメラメラと燃えているだけである。

「よし！ ちゃっっちゃとトンスラ！」

少年は腰に謎の機械を当てると、機械から瞬時にベルトが巻かれ装
着される。

そして掌サイズの謎のアイテムを機械の左にスロットし、レバーを
動かし周りに機械音を響かせる。

「変身！」

そのまま右のレバーを下に動かす。

そしてそのまま炎の中へと飛び出していった。

「おねえちゃん……。おとうさん……。」

こちらと同じく炎の中。

しかしこちらの青髪の少女は先ほどとは違って変わってまだ年相応に辺りに助けを求め歩き続ける。

すると。

「きゃあ！」

急に起きた爆発により少女は吹き飛ばされる。

「痛いよお……。痛いよお……。誰かぁ……。」

目から涙を流し助けを求める少女だったが、後ろの銅像の土台が崩れ銅像が少女に倒れてくる。

「っ！」

少女は目をつむる。

銅像が少女に向け一直線に落ちていった時……。

「ホアチャア~~~~~!」

銅像を何者かが飛び蹴りにより粉碎した。

「間に合ったあ……。叫び声が聞こえたから来てみたら……。大丈夫？ 可愛娘ちゃん」

その黒い身体に星空のような模様、顔にはまるで隕石のような青いパーツを着けた仮面の戦士は、少女を抱き抱える。

少女も特に怖がった様子を見せない。

「お兄ちゃん……。誰？」

「……………う~~~~ん。普通は人に名を聞く前に自分から名乗って男には言うんだけど……。まあ君にならいいか 将来美人になるだろうし……。メテオ……。仮面ライダーメテオ。それが俺の名前。」

「かめんらいだあ……。メテオ？」

「そう。まあ覚えづらいとは思いますがすぐに忘れていいよ？ いやすぐに忘れてくれればこっちとしてはいいんだけどね。なんせ勝手に仮面ライダーを名乗っただなんて師匠に知られたら俺の首が……。」

「？」

少女が頭を傾げた途端、天井が爆発し白い服の女性が降りてきた。

「あなた……大丈夫……ぶ……。」

女性もその戦士、メテオを見て言葉を失う。

「……あ、すいませ〜ん！ その美人さ〜ん！」

「え？ しゃべった!？」

「ちよつとこの娘お願いできます?」

「えっ? ……はい……。お仕事なので保護させていただきますが……、あなたは?」

「あ、俺は大丈夫です」

メテオは少女を下ろし、女性に預けた後空中にモニターを開き操作すると、炎の中から無人でバイクが駆けつけた。

「……まだ免許持っていないけど……、ばれないばれない」

メテオはそのバイク、メテオスターに乗り……。

「それじゃあね。また機会があったらまた会おうね。青髪の可愛娘ちゃん」

炎の中へと駆け抜けていった。

そして去り際に一言言い残して行った。

「あつつい！　なんで火星はあつても水星のはいんだよ！」

「お願いします。」

救急車により運ばれる青髪の少女。

彼女の心の中には二人の強い面影があつた。

一人はここまで自分を運んでくれた管理局のエースオブエース、高町なのは。

そしてもう一人は自分の死に行く運命を変えてくれたちよつと軽くて、優しい声の戦士……。

「忘れないからね……。仮面ライダー……。メテオさん……。」

しかし二人は知らない。

一年後、局の訓練施設で知り合うことを。

「流星、君にはまだ仮面ライダーの名前は早い。だから君はまだ仮面ライダーを名乗っちゃいけない……。」

「……なんですかそれ……。俺は強い！　師匠にだって勝てる自信がある！　その俺がなんで仮面ライダーの名前をくれない

「んですか！」

「……………君は知らない……………。仮面ライダーという名前に隠された本当の意味を……………」

「……………つざけんなっ！」

流星はその場を飛び出す。

そして二度とその場に帰って来なかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2497ba/>

魔法少女リリカルなのはStrikersMETEOR

2012年1月6日12時50分発行